都心のビルに稲穂揺れ…

MAINICHI
毎日新聞
7月27日（月）
2009年（平成21年）
発行所：東京都千代田区一ツ橋1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321
毎日新聞東京本社

六本木ヒルズの近くで「一畳田んぼ」

一方、六本木ヒルズ（東京都港区）に近い7階建てビルの屋上には、この春から「一畳田んぼ」が登場。子どもたちが植えたコシヒカリが順調に育っている。

アートディレクターの水谷孝次さん（58）が昨春、オープンした屋上農園「MERRY GARDEN（メリーガーデン）」で、たるやバケツを使って国内外の約30種の稲を栽培。「今年は一歩進んで、一畳サイズのミニ水田に挑戦した」という。

「一畳田んぼ」は、アドバイザー役の東京農業大准教授の入江憲治さん（45）が提案した。「木の板で枠をつくり、防水シートを敷いてその上に土と水を入れた簡単なものだが、水と肥料を絶やさないように注意すれば稲は育つ」と入江さんは言い「これぐらいの大きさなら農薬も必要ない」。

水谷さんは本業のかたわら、人々の笑顔を写真に撮り、メッセージを集めて紹介する「メリープロジェクト」の活動を10年前から続けている。

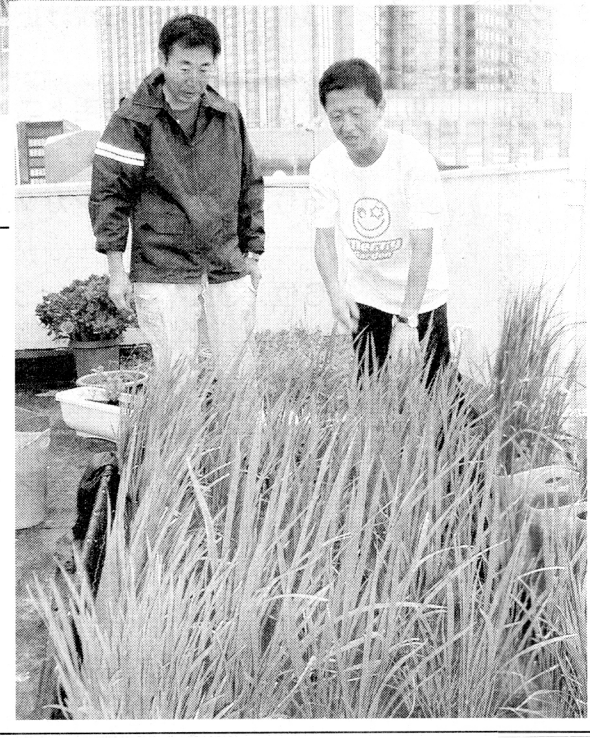
「友人からスイセンの球根をもらい、鉢に植えて仕事場で育ててみたら、ちゃんと花が咲いた。植物を育てる楽しさを思い出し、ビルのオーナーに屋上の使用許可を得た」といい、同プロジェクトの一環として「笑顔が花咲く庭を」と屋上農園にも力を入れるようになった。

6月6日の田植えは友人、知人らに呼びかけ、子どもたちも参加した。そのほか屋上ではキュウリやナス、ミニトマトや西洋野菜も栽培しており、水谷さんはゴーヤでつくった「緑のカーテン」のそばに机といすを置いて仕事をすることもある。

「ここはヒルズ族と呼ばれる人々がいる街だが、屋上という空間を使えば都心でも農に触れることができ、ささやかながら地球温暖化の防止にもつながる」

9月下旬には稲の収穫祭を計画しており、「収穫のときのみんなの笑顔が楽しみです」。

田植えをする子どもたち＝6月6日、東京都港区内で（メリープロジェクト提供）



「一畳田んぼ」を提案した入江さん（左）と水谷さん

マイECO

マイECOの「マイ」は、「MY（私）」と「毎日新聞」の「毎」をかけたものです。「身近なエコを分かりやすく伝える」をコンセプトにしたフリーペーパーとウェブサイト（http://mainichi.jp/life/ecology）もこの紙面と同じロゴを使っています。